

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100846		
法人名	有限会社 ティー・エイ・シー		
事業所名	オークヴィレッジ かるがも		
所在地	札幌市北区新川4条19丁目5-7		
自己評価作成日	平成23年2月18日	評価結果市町村受理日	平成23年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした流れの中で、安心と尊厳のある生活を保障され、個人が主体的な決定を行なえるような様々な分野の活動、又は機会を支援すると共に、地域において必要な福祉サービスを総合的に総合的に個人の状況に応じ提供している。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170100846&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年3月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広々とした見晴らしで、気持ちの良い郊外に立地する。すぐ隣には公園があり、春は桜が楽しめる。利用者が安心して、尊厳を保ちながら心穏やかに過ごせるようにという理念に基づいて、就寝・起床時間を自由にするなど、利用者のペースに合わせた介護に気を配り、会議やカンファレンスなどの機会に職員が話し合い確認し合っている。
災害対策の訓練は、消防署や地域住民の協力を得ながら、2ヶ月ごとに実施するほか、机上訓練も合間に実施し、全職員が十分に熟練していざという場合に役立つよう、対策に力を入れている。
排泄の自立支援は、紙パンツ常用の新入居者も必ず一旦布パンツに戻して自立を試み、必要に応じて補助用品を用いるなど、きめ細かな配慮で自立を目指し、実際多くの改善を実現している。
食事は、職員と一緒に席を囲んで話題を提供しながら、和やかに楽しい団らんの雰囲気を作り出している。お風呂は朝から夕方までいつでも湯が沸いており、希望すればすぐ入れるように用意ができています。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中には、地域交流する事を目的とした内容が盛り込まれている。	法人理念、かるがもの心、介護理念という3段階の理念体系を持ち、施設内掲示、職員のカード携帯、毎朝の唱和などにより周知が図られている。日常的な業務の中で確認しながら理念の実現を目指している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に施設のご理解を頂くために、町内会の会議や町内会行事へは積極的に参加をしており、利用者や職員と一緒に地域住民の皆様と交流をしている。	町内会に加入して、バスツアー、夏祭り、道路清掃などに参加している。近隣の学童保育の子供が来訪して交流し、小中学生の演奏会に招かれて聞きに行ったり、ホームが実施する秋祭りには近隣住民が大勢参加して交流している。	左記に加えて、近隣との日常的な付き合いも更に深めて心を通い合わせるような関係を作りたいとの意欲を持っているので、その成果に期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今、現在行っていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーより色々な意見等を頂きホームの向上に努めている。	町内会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、利用者本人が参加して、2ヶ月に1回定例で開催されている。行事、入居者の生活状況などを報告し、話し合っている。事業所としては地域に溶け込む機会として重要視している。	参加者が会議の意義をよく理解し、積極的な参加意欲を持つこと、および家族の参加を増やし、家族同士の交流が図られるような工夫で、会議が一層有意義なものになることを期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や区の管理者会議に出席し連携を計っている。又、意見交換等気軽に出来る状態にある。	市および区の管理者会議でそれぞれの担当者と交流する機会を持っており、必要があればいつでも相談したり援助を求めたりできる関係はできている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアとして、見守りを中心として自由に動いて頂いている。但し、危険が伴う行動が発生した場合は、声掛けをして危険の回避をしている。	このテーマについての外部研修の機会があれば職員を派遣し、報告会を行って全職員の理解の向上に努めている。日々現場で気になる事例が目につくごとに指導している。玄関は夜のみ施錠し、日中は開放してチャイムを付けることで人の出入りを察知している。外出する利用者を抑止することなく職員と一緒に付いて出て安全を期している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的・精神的虐待については早期発見に努め、又行なわれないよう徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護利用者が居る為手続きなどの理解はしている。又、社会福祉協議会等と協力し後見人制度の内容も理解している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学にこられて時から説明させて頂き、契約時には特に何度も説明しご家族からの質問・疑問の確認をしている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には入居者も必ず参加し、外部への意見を提示出来る場を提供している。	家族には遠慮があって意見を言い難いという事情を理解して、家族の来訪時にはできるだけ意見や要望を聞き出すように努力している。法人本部から家族へアンケートを行い、遠慮せずに意見を表明できる機会も設けている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体の意見は、月に1回の会議にて、又ユニットごとの会議もあり意見交換している。又、その都度スタッフの声に耳を傾け反映させている。	毎月の会議が職員意見表出の機会になっている。日常的に職員から出される意見に耳を傾けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全体の意見は、月に1回の会議にて、又ユニットごとの会議もあり意見交換している。又、その都度スタッフの声に耳を傾け反映させている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については随時参加出来るよう調整している。又、スタッフのレベルにより研修内容の調整も行なっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議などにて、管理者間での情報交換やネットワークづくりを行っており、又、その研修会にも参加することで更なる質の向上を図れるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの聞き取りが困難な場合を除き本人の意向等を聞き入居時には不安が少なくなるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安な事などを聞き少しでも不安を取り除いてから入居していただくよう心がけている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談時には、他医療・福祉関係職が既に見極め勤められて来ている事が多い為他のサービスを勧める機会は少ないが、相談にはその時の不安に思っている事を解消出来るよう説明している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来そうな時は食事準備等お手伝いして頂き楽しく過ごせる様に心掛けています。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には封書や面会時ご本人の状況等もお伝えし、又ご家族の状況なども聞き入れ話し合い等はしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃の会話の中に、家族の名前・生活していた環境・昔の思い出等本人より聞ける機会を多く設けている。	来訪する友人を受け入れ、昔から馴染みの美容院へ同伴することもある。墓参りは家族が同伴している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方の表情等を観察し必要な時はスタッフが間に入ったりし入居者同士が交流を図れるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	全員ではないが、継続的な関わりを持っている家族もいる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活様式や考え方も全て異なっているため、スタッフは各個人の考え方や希望を常に把握し、又日々変化する思いも敏感に捉え、スタッフ同士で情報交換等連携を図っている。	日々の関わりの中で利用者の言動を注意深く観察し、何気ない振る舞いからも真意を汲み取る努力をしている。情報は職員間で交換し、分析して理解を深めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりを理解するために、入居された時の記録等に目を通したり、本人に昔の思い出や今までの生活状況などをお聞きしている。又、家族が面会に来られた際に、話を聞くように心掛けている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の業務日誌、利用者の個人ごとの記録の作成や綿密な引継ぎにより、全職員が生活状況・精神状況・活動状況等情報を共有化し利用者の現状を把握している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度カンファレンスを実施し、関係者がそれぞれの立場から本人の生活状況、身体状況等を確認し現状に合わせた適切な対応を図るための話し合いをし介護計画に反映している。	計画作成担当者が中心となって、本人の希望を聞き取り、医師・看護師の情報記録を踏まえ、家族からは面談・電話連絡により意向を聴取し、カンファレンスで職員の意見やアイデアを取り入れてまとめ上げている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録、業務日誌の記載により、職員間で各個人の情報を共有し状況に合わせた対応を確認・実行並びに介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望・希望を聞き病院・デイサービス・居宅介護支援事業所などに相談し本人や家族にとって良い環境になるように努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティア来訪にて交流を深め、又、運営推進会議にて民生委員の方が参加されており支援できる状況にある。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の係り付け病院に受診することも可能である。 馴染みのホームドクターにて継続的に支援をしている。	かかりつけ医は利用者・家族の意向を尊重している。協力医は隔週往診に来訪する。それ以外のかかりつけ医は、受診の際、生活の様子をメモで家族に渡して説明し、受診結果は家族から詳しく聴取して、服薬など、的確な医療対応に心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護により、入居者の健康状態の把握をしていると共に、スタッフや入居者により気軽に相談できる状況にある。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	突発的な入院も想定し常に薬の情報や診療情報提供書は常備している。又、入院時には入院前の状況を出来るだけ伝えられるよう病院関係者との情報交換を行っている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時説明し、又重度化した場合は早めに話し合い変化があればその都度話し合いを行なっています。	入居契約の際に重度化した場合の対応について説明し、文書によって確認を交わしている。実際に重度化した場合は改めて医師を交えて話し合うことになる。延命処置など医療対応を望まなければ、終末の看取りは受け入れる態勢である。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、応急手当の研修には行なっている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練など、2か月に1回行い、地域の消防施設とも連携を取るようになっている。	2ヶ月に1回、原則として消防署も参加して、夜間および日中の火災を想定した防災訓練を行っている。全職員が十分に熟知するよう、その他に机上訓練も行っている。町内会へも通報し、連絡を受けた住民が訓練に参加している。	火災の他に地震、水害についても危険度について確認し、日ごろの備えや避難の訓練について、また避難の際の備品についても検討することを期待したい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に各個人の尊厳を重視し、名前を呼ぶ時は「さん」付けて呼んでいる又、会話中もプライバシーを損ねる様な発言はしていない。	トイレ誘導や汚れた服を着替える時の声かけは、耳元で話しかけ、誇りを損ねないように配慮している。職員が気になる言葉かけをした時は、管理者がその都度注意を促したり会議で話し合う機会を設けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は常に入居者の表情・言動・行動に注意を払い、常に声かけをしながら本人の意志を引き出すように心掛けている。又、職員が一方向的に誘導するのではなく、生活している中で本人に選択肢を与える機会を多く取り入れている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の体調や生活ペースは異なるため随時本人に確認をしながら生活をしていただいている。又、日常生活において、レクリエーションやお散歩などの声掛けをして、本人の希望が選択できるよう暮らしのお手伝いをしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の洗面時には、身だしなみとして洗顔後の整髪や髭剃り、衣類の選択について声掛けをしたり、訪問理美容の活用については本人や家族と連絡調整をし活用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	諸銃に関する共同作業は、全員が対象と考えており、その日の入居者の体調や状況に合わせて、分担しお手伝いをして頂いている。	職員は準備から片付けまで利用者と一緒にいき、楽しく会話をしながら食事を共にしている。献立は食材会社で作成しているが、利用者の希望に応じて食材を活かして献立を変更したり、お弁当を取るなど食事が楽しめるように工夫している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好については、本人並びに家族の協力を得ながら好きな食べ物や飲み物を自由に召し上がられている。又、施設から提供するおやつや飲み物についても入居者さんに選択肢を与え召し上がっていただけるよう配慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きができる方は歯磨きをして頂き、義歯の方でうがいも難しい方は本人の拒否が無い限り、毎食後ガーゼを使用し口腔ケアを実施している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄が難しい入居者には、24時間排泄チェックをしており、紙オムツの利用を極力しないようにする事と、自らの意志による排泄をしていただくために、各自のパターンを理解しながら声かけをするなどし、スムーズな排便を促している。	トイレの声かけが必要な利用者は、ケース記録に排泄時間を記録してパターンを把握している。オムツを使用していた利用者も、利用開始後に必ず布パンツにして自立支援を行うことで、日常的に布パンツに移行した利用者もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便・体調の確認をし乳製品や腹部マッサージ等必要に応じ対応している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的にはいつでも利用できる体制にあり、本人の希望時間等を確認し入浴して頂いている。	毎日7時～20時頃まで入浴が可能になっている。本人の希望に応じた時間帯で、昔話をしたり一緒に歌をうたいながら各利用者が一日置きに楽しく入浴できるように支援している。入浴を嫌がる時は本人の気分に配慮して声かけを行い、スムーズに入浴できるように工夫している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息をするためには、静かな環境が必要のため、リビングのテレビの音量は大きくなりすぎないように、入居者にご理解とご協力をしていただき、小さめに設定させていただいている。又、スタッフの訪室により環境を確認し病気や事故防止に努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個別の服薬情報を完備し、職員は随時情報入手している。又、体調の変化により服薬が変更になった場合は、申し送りはもちろんの事、連絡ノート・業務日誌にも記載し変更の確認をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者さんには生きがいや喜びのある生活をしていただくために、織女の準備や掃除等をお手伝いして頂き、今までの生活の延長として、スタッフと共に参加して頂いている。お天気の良い日には、お散歩やベランダで日光浴などをされ楽しませている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>出来る限りご本人の意志に添える様にしている。又、スタッフ側からお誘いし戸外に出かける支援をしている。</p>	<p>冬季以外は毎月1回ドライブに出かけたり、天候に応じて隣の公園でお弁当やおやつを楽しんでいる。また、利用者に応じて近隣の散歩や買い物、畑の作物を見たり、ベランダで過ごすなど戸外に出る機会が少しでも多くなるように工夫している。冬季は初詣や雪祭り見学などの外出を楽しんでいる。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>可能な方には金銭管理をお任せしている。又、管理については、現金出納帳の記載、領収書等の関係書類を毎度精査し家族に報告している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族への電話や家族のお手紙の発送については、施設も援助しながら自由にやり取りをされている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間には、季節を感じて頂く為に、季節に応じた切り絵などにて飾り付けをしたり、クリスマスやお正月等には飾り物をして雰囲気味わって頂いている。又、就寝前には、良眠して頂ける様に物音はなるべく立てず、カーテン等により光が漏れないよう配慮している。</p>	<p>共用の空間は広々としたバリアフリーで、車椅子利用者も移動しやすい造りになっている。各ユニットの利用者に応じてソファの配置を工夫したり、季節の装飾と共に利用者の作品をさり気なく飾るなど、落ち着いた過ごせるように配慮している。手作りの日めくりや数カ所に時計を配置するなど、時の見当識にも配慮した共用空間作りを行っている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間には、昔自分の家に有った様な畳のある小上がりを用意したり、一人で座れるソファや複数の入居者同士で座れるソファを用意しており、自由に入居者さんが利用できるように配慮している。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室に有るものは全て本人と家族とで話し合いをし持参されており、限られたスペースの中で生活に支障が出ない程度に工夫し配置している。</p>	<p>居室には大きな窓があり、明るい光と共に季節の移り変わりを身近に感じることができる。筆筒や衣装ケースなど好みの物を持って来たり、使い慣れた机や思い出の写真、魚拓などを飾り、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>出来る限り自立した生活を送っていただくために、安全な環境作りの一環として施設内をバリアフリーで統一し浴室・トイレはもちろんの事、廊下やリビングには手摺りを設置し安全に生活して頂ける様に工夫している。</p>		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100846		
法人名	有限会社 ティー・エイ・シー		
事業所名	オークヴィレッジ かるがも		
所在地	札幌市北区新川4条19丁目5-7		
自己評価作成日	平成23年2月18日	評価結果市町村受理日	平成23年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「丘ユニット」に同じ

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170100846&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年3月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り上げ、その中に地域交流する事を目的とした内容が盛り込まれている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加したり、かるがも内での行事に参加してもらえる様回覧板で回し参加出来るようにしている。又、地域のボランティアさんが来訪し月2回手芸教室を開いて下さっています。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的な地域への回覧板を通してかるがもの事業を知っていただくと同時に地域の高齢者が気楽に来訪しやすい様働きかけている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、かるがもの様子を知らせていただく機会としている。又、参加して頂いたメンバーに意見や協力を頂く事が出来ている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在問題が無いため行き来は無いが必要時は可能。運営推進会議にてかるがもの運営についてなどの相談もしている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の意味を理解しそのような行為を行っては居ない。又、研修会などに参加し拘束を行わないケアを徹底している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に全身の確認を行ない、肉体的虐待や精神的(言葉の表現は特に)虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>今までは必要性のある入居者がおらず学ぶ機会も無かったが、現在手続き中の入居者も現れてきており、学ぶ必要性を感じている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>見学にこられた時から説明させて頂き、契約時には特に何度も説明しご家族からの質問・疑問の確認をしている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議などに参加して頂き外部者へ表せる機会は設けてはいるものの、意見・不満・苦情を引き出すことが難しい。</p>		
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>各個人からはその都度意見を聞き、全体の意見は月1回の会議にて話し合いをし反映している。</p>		
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>各個人からはその都度意見を聞き、全体の意見は月1回の会議にて話し合いをし反映している。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員各個人が行きたい研修等へは、積極的に行けるよう配慮したり(休日を取りやすくする等)。又、外部研修に参加する機会を提供している。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者会議などにて、管理者間での情報交換やネットワークづくりを行っており、又、その研修会にも参加することで更なる質の向上を図れるように取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの聞き取りが困難な場合を除き本人の意向等を聞き入居時には不安が少なくなるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安な事などを聞き少しでも不安を取り除いてから入居していただくよう心がけている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期相談時には、他医療・福祉関係職が既に見極め勤められて来ている事が多い為他のサービスを勧める機会は少ないが、相談にはその時の不安に思っている事を解消出来るよう説明している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として昔の事や色々な事を教えて頂きながら、共に支えあう関係を築いている。		
19		本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に近況報告をした上で家族の方と相談し、本人を支えていける様努めている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話を多くし本人の気持ちや思いを聞いて電話や手紙・年賀状を書くように進めている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、問題がある場合は直ぐにミーティングを行いより良い関係が築ける様に努めている。又、お茶会などの席を設け談話などにて良い関係を保てる様に心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後は、関わる機会がほとんど無いが、他サービスへスムーズにつながり入居者様が安心できる様申し送りに配慮している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人らしく生活が出来るよう、個人にあったペースで送れるようにしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報やご家族からの情報などを元に把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェック、体調確認又、表情や会話から心身状況を把握し無理の無い過ごし方を支援している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意志・体調など様々な面から話し合いをし、長いスパンで本人がより良く暮らすため介護計画が作れるよう努めている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録や業務日誌に日々の様子や変化があった事を記入しスタッフが対応できるように情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族からの要望には出来る限り添えるように柔軟に対応出来るよう努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアとして定期的に、手芸教室を開いていただき、入居者も楽しく参加している。又、学童保育との交流ももてるようきっかけ作りをしている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後納得の元、かるがものかかりつけ医に変更される方が多いが、ご本人の希望により元々のかかりつけ医は継続できる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護により、入居者の健康状態の把握をしている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	突発的な入院も想定し常に薬の情報や診療情報提供書は常備している。又、入院時には入院前の状況を出来るだけ伝えられるよう病院関係者との情報交換を行っている		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的な医師や看護師の診察を行なう事で不調の早期発見に努めご家族に報告している。現在、終末期の方は居ないが認知症の進行に伴うレベルダウンについては常にご家族に理解していただけるよう努めている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	赤十字救急の講習を置けている。又、対応方法のプリントがスタッフルームに置いてある		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回訓練を行なっている。小まめに訓練を行なう事で体に身に着くようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーを損ねないような言葉かけをしないよう意識している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が分かりやすいように文章は短く答えやすいように選択肢は多く出さないよう選びやすくしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活のため全ての希望を叶えられない事もあるが、日々入居者の体調や表情等に合わせて出来る限りご本人のペースで過ごしていただくよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の希望を聞いて訪問美容でカットしたり爪切り後マニキュアをしたりおしゃれを楽しんでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の体調や力を考え、準備や片付け等に参加して頂いている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み物はその日の状況などに合わせ提供する事もある。おやつは時々入居者の方々と作ったり楽しめる様に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりにあった口腔ケアをしている。又、定期的な訪問歯科にて口腔ケアの指導を受けている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状況に合わせて、トイレ板に時間を書き入れパターンをつかみ気持ちよく排泄できるようにしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便チェックを行い便秘防止に努め飲み物など工夫し提供している。又、体を動かしたり(体操・散歩)腹部マッサージにて対応している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴は可能で、時間なども決まっておらず一人ひとりに合った対応をしている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ほとんどの方が居間で自由に過ごされています。その日の体調や気分により自室での休息を促す時もある。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳の内容を理解し服薬の支援をしている。症状の変化や観察・確認もしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割等を支援し負担にならない程度に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に添う事は少々難しい所も有るが、外出する機会を作っている。その日の天候により数名ずつで町内を散歩するなどの機会を作っている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方がスタッフ側で管理している。数名個人でお金を所持しており、買い物時そのお金を使う事も可能		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に掛けられる。又手紙や年賀状などはスタッフにより声掛けをし出せる様に支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や絵、季節や行事にあった飾り付けを入居者さんと一緒に行ない楽しく心地よい工夫をしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ、居室でお茶会をしたり、気の合う方同士が居間で楽しく過ごせるように工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族の意向を聞き不便さを無くし、慣れ親しんだものや好きなものを活かし工夫をして居心地欲過ごせるようにしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内全てにおいて手すりも多く個々に自立した生活が送れるように工夫されている。		

目標達成計画

事業所名 オークヴィレッジ かるがも

作成日：平成 23年 3月 22日

市町村受理日：平成 23年 3月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	現時点で町内会の行事参加や学童保育・小中学校との交流など行なえているが、近所の方々との密な交流が難しく行なえていないような状況にある。	近所の方が理解を示して頂けるよう今まで以上にオープンにしていく。	近隣の方が訪問しやすいように、来訪の声掛けや近隣参加の行事などを増やしていく。	数年
2	4	参加者より意見を頂ける事が少なく、会議の意味の理解が不十分ようである。又、入居者の御家族の参加が偏りがちに成っている。	運営推進会議の意義、及び御家族の参加メンバーの偏りを無くす。	定期的に入居者御家族に会議参加の案内を送ると共に会議の意味の理解に努める。	1年
3	35	現在備蓄品は無く、震災時の対応としては不十分な所がある。	入居者の状況に合わせ、備蓄の内容を考慮し検討する。	備蓄用品の販売が落ち着いた時に、揃えていく。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。